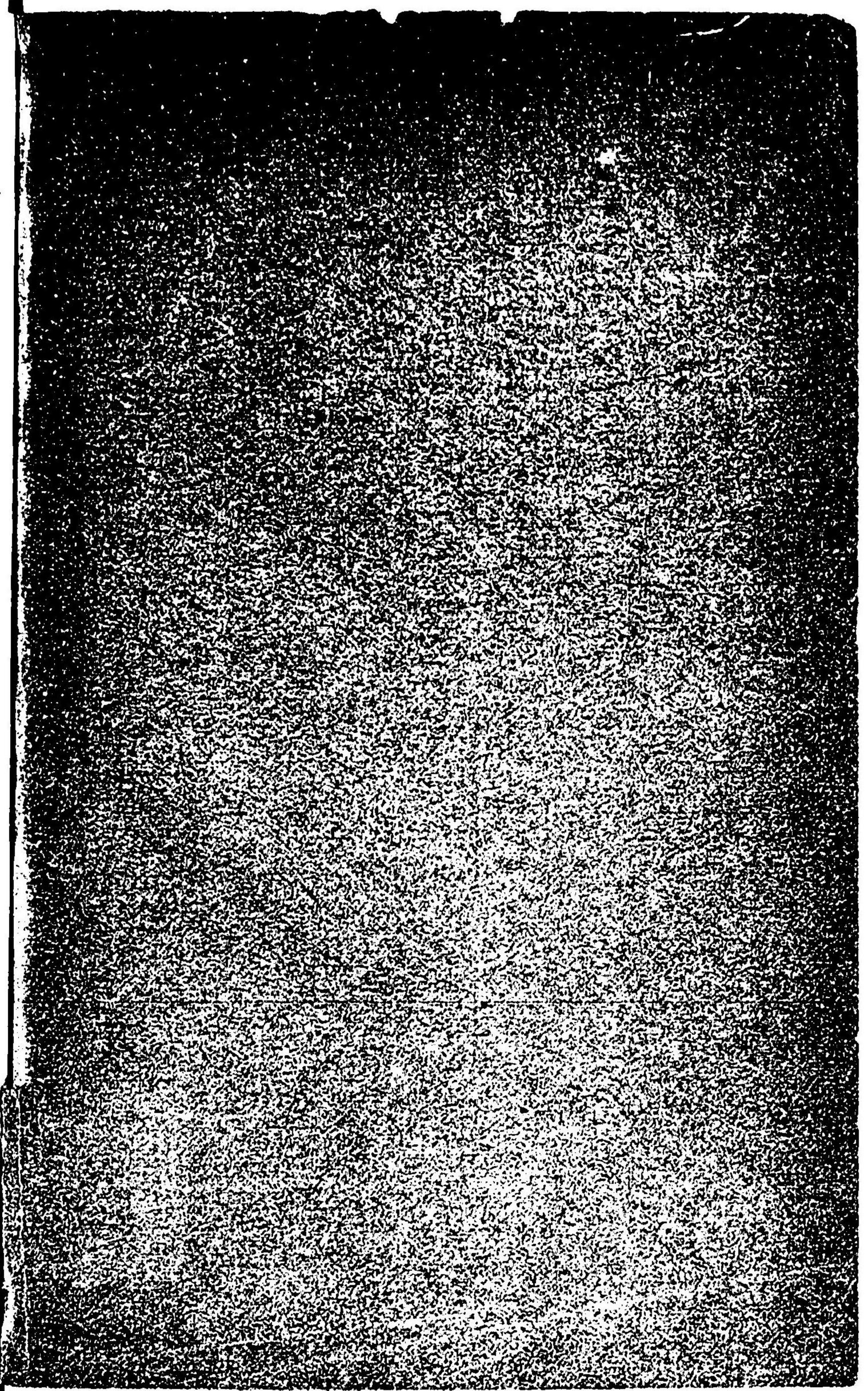


各種染料濃淡對照標本染法

完

22

941



獨佛瑞各種染料濃淡對照標本染法

染法解説概要

上編之部

上編直接染料綿布染用井タル染布ハ其色相ヲ識別シ易カラシムル爲メ特ニ漂白
シタル物ヲ多用非ズ但シ黑色染料及硫化染料ノ中ニハ晒サレル生地ノ儘單ニ
處理シテ使用セルモノアリ其場合ニハ▲印ヲ附ス

凡例

- ▲印ヲ附シタルモノハ生地ノ儘晒サズニ使用シタルモノ
- △印ヲ附シタルモノハダイアゾ顯色ヲナシタルモノ
- 印ヲ附シタルモノハ磷酸曹達ヲ用井タルモノ
- 印ヲ附シタルモノハ特別ノ染法ニ依ルモノ
- %ハ「ベルセント」或ハ「パーセント」ト云フ即チ百分ノト云フ意味ナレバ%百分中三
分即チ百分ニ對シ三々一%百分ニ對シ一々五分又%百分ニ對シ十五々ナルガ如シ

第一染法 直接染料綿布染

可染布百々ニ對シテ各其所要ノ染料ト「ベルセント」乃至二十五「ベルセント」ノ結晶硫
酸曹達ヲ染液中ニ加ヘ約四十五分時以上一時間沸騰點ニテ染メタルモノナリ

明治
38 11
内交

但シ濃色ト中色ト淡色トニヨリテ曹達ノ分量ヲ適宜増減スル事
硫酸曹達ノ量ハ染料ニ依テ一定セザレドモ大約染料ノ四倍若クハ五倍位ヲ用ユ濃色ニ
ハ硫酸曹達ノ外ニ同量ノ食鹽ヲ加フ可シ

第二染法

可染布生地百匁ニ對シ硫酸曹達五匁乃至二十五匁結晶曹達(洗ソーダ)五分乃至二匁五分
ヲ所要ノ染料ト共ニ混入シテ染浴ヲ作り沸騰點迄ニ昇セテ三十分ヨリ一時間迄煮染シタ
ルモノ濃淡ニ依リ其染料「ペルセント」ノ量ニ應ジテ媒染劑ヲ増減スル事第一法ニ同シ
左記ノ染料ハ普通沸騰點ヲ以テ染ムルヨリモ却テ冷浴若クハ温浴(攝氏五十度位迄)ニ
テ染ムル方光澤美麗ニテ好果ヲ得又冷浴ヲ以テ温度ヲ與ヘズニ染ムルニハ

硫酸曹達八匁乃至十五匁ト石鹼六匁トヲ以テ染液ヲ作り四十五分乃至一時間冷浴ノ
儘浸染ス可シ(石鹼ノ代リニロード油三匁ヲ使用スルモヨシ)

ダイレクトローダミン チカゴアリウ クリソフエニン コロムビヤブリウ
クルクミーン サンベーンブラツクD ヘリオトロップBB サンベーンブラツク
但シ此標本ニハ冷浴染ヲ用非ズ普通ノ煮染法ニ依ル

特ニダイヤミングリンGA及BAハ洗曹達ヲ用非ズ硫酸曹達ノミヲ用ユルヲヨシトス

ダイアゾ化及ビ「ベタナフトル」顯色法

染色ノ濃淡ニ依テ多少ノ差異アレドモ先ヅ左ノダイアゾ化液ヲ作り之レニ普通第一法又

ハ第二法ヲ以テ染色シタルモノヲ十五分間浸シ次ニ顯色ニ移ル可シ

冷水 適量 亞硝酸ソーダ 三匁 硫酸(若クハ鹽酸ニテモヨシ) 六匁

次ニベタナフトル顯色法ハ

ベタナフトル 二匁 苛性曹達 二匁 水 適量

ベタナフトルノ溶解法ハ別法ノ如ク同量ノ苛性曹達溶液ヲ以テ充分ニ攪拌シタル後相當
ノ熱湯ヲ加ヘ溶解シ之レニ冷水ヲ加ヘテ此液中ニテ前同様十五分間處理シ顯色シテ引揚
ケ絞リ水洗シテ乾ス可シ

第三染法

「クリオゲン」「カタゲン」「イムメツアル」
「サルフロ」「チヨゲン」「ビロジン」

各種屬染料

硫化染料ニハ其染料ニ依リ又ハ濃淡ニ依テ夫々媒染劑ノ量ヲ異ニスト雖モ硫化染料「ブ
ラツク」ニハ概テ左ノ分量ニ依ル

染料 料 十五「ペルセント」乃至三十「ペルセント」

硫化曹達 八「ペルセント」乃至二十「ペルセント」

曹達灰 八「ペルセント」乃至二十「ペルセント」

食鹽 六十「ペルセント」乃至八十「ペルセント」

水 三升五合乃至四升

右ノ分量ニ依テ作りタル染液ヲ漸次熱シタル後綿布ヲ繰入シ時々斑點ノ出來ザル様注意
シテ一時間以上沸騰點ニテ煮染シタルモノナリ

硫化染料ブリウ及エルローニハ概テ左ノ分量ニ依ル

染料 五「ペルセメント」乃至十「ペルセメント」ヨリ二十「ペルセメント」

硫化曹達 四「ペルセメント」乃至十五「ペルセメント」

ソーダ灰 四「ペルセメント」乃至六「ペルセメント」

食鹽 四「ペルセメント」乃至十「ペルセメント」

水 三升五合乃至四升

特ニ鮮明ナル淡色イムメヲアルスカイブリウノ如キモノニハ前記ノ外ロード油少許ヲ入ル、チヨシトスルテノ硫化染料中「ブラツク」又ハ「ブリウ」紺染濃色ヲシテ一層堅牢ナラシムル爲メ左ノ金屬處理法ヲ行フ

紺若クハ青味ヲ帶マル黒色ニハ 重クローム酸加里三「ペルセメント」ト醋酸三「ペルセメント」ヲ

濃黒色ヲ得ンニハ クローム明礬一、五「ペルセメント」ト醋酸三「ペルセメント」ヲ

又ハ重クローム酸加里一、五「ペルセメント」ト丹礬一、五「ペルセメント」ト醋酸三「ペルセメント」ヲ

右ノ分量ニヨリテ熱浴トナシ二十五分乃至三十分間處理シテ後水洗ス可シ

注意(一)硫化染料ヲ以テ染色スルニハ凡テノ器具染槽ニ銅器又ハ眞鍮製ノ器具ハ一切使用スルコトヲ得ズ木製、磁製、陶器、硝子、ノ類ヲ用ユ可シ

但鐵製ノモノハ差支ナシ

(二)染布ノ液面ニ浮バザル様注意ヲ要ス然ラサレバ硫化曹達ノ液面ニ浮遊セルガ爲メ往々斑點ヲ生ズルコトアル可シ

第四染法

鹽基性染料ニテ綿布ヲ染ムルニハ先ヅ色合ノ濃淡ニヨリ濃色ニハ四「ペルセメント」ノタンニン酸(淡色ニハ其半量ニ「ペルセメント」ヲ生地百匁ニ對シ三升位ノ水ニテ溶解シ少シク熱ヲ與ヘテ稍ヤ温湯トナシ綿布ヲ投入シ四五回絞リ之レニ一時間(凡ソ十二時間)浸シ置キ(淡色ノトキハ二三時間ニテヨシ)翌朝之ヲ取出シ水洗セズシテ絞リ直チニタンニン酸ニ對スル半量ノ吐酒石(又ハアンチモンサルトニテモヨシ)即チ濃色ニハ二「ペルセメント」淡色ニハ一「ペルセメント」ノ冷溶液中ニテ四五回繰リ直チニ水洗シテ後チ直チニ冷浴或ハ微温浴ニテ三十分乃至四十五分間染色ス可シ

但シ染ムヲ防グ爲メニ豫メ液浴中ヘ一「ペルセメント」乃至三「ペルセメント」ノ明礬若クハ一「ペルセメント」乃至三「ペルセメント」ノ醋酸ヲ加フ

總テ鹽基性染料ハ生地ニ吸收スルコト速カナルモノナレバ其染着力ヲ平カナラシムル爲メニハ染料溶液ヲ數回ニ分テ染槽ヘ加フベシ尤モ之レヲ加フル際ニハ其都度必ズ綿布ヲ取出シ置ク可シ

第五染法

直接染料ヲ以テ絹布ヲ染ムルニハ左ノ分量ニ依リ硫酸曹達及醋酸ヲ以テ沸騰點ニテ三十

分煮染スベシ

染料 四「ペルセメント」(濃色)乃至一「ペルセメント」(淡色)硫酸曹達二十五「ペルセメント」乃至十五「ペルセメント」ニ醋酸二「ペルセメント」

但黑色染料ニハ濃色トシテハ染料十「ペルセメント」乃至八「ペルセメント」トス

尤モ硫酸ソーダハ之レニ準シ約染料ノ四倍ヲ要ス染色後稀薄ノ酸液中ニ通ズルトキハ一層鮮麗ナル色合ヲ得

第六染法 中編 之部

鹽基性染料ヲ以テ絹布ヲ染ムルニハ染液ニ用ユル水ヲ豫メ注意シテ軟水ヲ撰ブ可シ若シ石灰分ヲ含有セル疑アルトキハ少許ノ醋酸ヲ點下シテ中和ス可シ

先ツ染槽ニ水ヲ盛リ石鹼ノ練汁(凡ソ生地ノ倍量)ヲ加ヘテ別ニ所要ノ染料ヲ溶解シタル染液ヲ加ヘ後之レニ尙ホ少許ノ醋酸又ハ(酒石酸)ノ如キ弱キ有機酸類ヲ加ヘ少シク酸性浴トナシテ絹布(縮緬)ヲ入レ漸次温度ヲ昇シテ攝氏六七十度位ニテ染上ゲタルモノニシテ後水洗ノ際醋酸ヲ含メル清水(水千ニ付醋酸五)ヲ以テ水洗シタルモノナリ

第七染法

エオシン屬ノ染法ハ凡テ第六染法鹽基性染法ト同一ニ付之レヲ省略ス

第八染法

サエナス染料ヲ以テ絹布(縮緬)ヲ染ムルニハ最初染料ヲ溶解スルニ當リ少許ノ醋酸ヲ加

ヘテ溶解シ而シテ濃色ノ分ニハ所要ノ染料ト醋酸二「ペルセメント」ヲ加ヘテ攝氏六七十度ヲ以テ三十分間蒸染シタルモノナリ尙淡色染ニハ班ヲ防グタメニ醋酸二「ペルセメント」ト硫酸二「ペルセメント」ヲ用ユ

サエナス染料ハ謙信洋行ノ扱ニ係ルヘキスト染料製造會社特獨ノ製造品ニシテ濃厚優美ナル色相ヲ有シ比較的堅牢ナル鹽基性ニ屬スル染料ニシテ日光、酸、アリカリ、石鹼、及ビ摩擦、洗濯等ニ堪ユ又絹綿或ハ綿毛交織等ニ等シク染着スル恰好染料ニシテ染法簡易ナレバアリザリン染料ノ代用トシテ至極適當ノ染料ナリ

附言

サエナス染料ニシテ一層堅牢ナラシメンニハ前記ノ法ヲ以テ染色シタル絹布ヲシテ單寧酸少許ヲ溶解シタル微温液中ニ一時間計リ浸シテ絞リ乾ストキハ非常ニ堅牢トナリ隨テ幾分ノ増量ヲ見ルコトヲ得

第九染法

酸性染料ヲ以テ絹布ヲ染色スルニハ失張鹽基性ト同様石灰質ヲ含有セザル軟水ヲ撰ブ事
前法ニ同シ

染色ノ順序ハ何レモ鹽基性ト同シク最初洗槽中へ練汁(之レモ同シク可染物ノ二倍以上)ヲ加ヘ醋酸若クハ硫酸ヲ少シク點下シテ全ク酸性反應ヲ現スマデユスベク而シテ別ニ溶解シタル染料ヲ加ヘテ徐々ニ温度ヲ與ヘ沸騰點近クマデ(攝氏約八九十度)熱シテ二十分ヨリ三十分時位ニテ染メ上テ直チニ水洗シテ新ニ稀薄ノ有機酸類ヲ含メル微温浴中ニ投

シ亜美法(艶付法)ヲ行フタルモノナリ尤モ染料ニ依テ稍ヤ強キ無機酸類(硫酸或ハ鹽酸ノ如キ)ヲ染浴ヘ加フルニ適當ナルモノアリ又「アルカリブドウ」ノ如キハ硫酸ニ代フルニ硼酸ヲ用フル事アリ

アリザリン染料

「アリザリン」ナル色素ハ本來水ニ不溶解性ノモノニシテ無色ナレドモ金屬鹽類ト化合シテ初メテ各種ノ色相ヲ顯スモノナリ今市場ニ販賣セラル「アリザリン」屬染料ハ鹽類ヲ以テ復鹽トナシ水ニ溶解ス可ク製セラル何レモ(SW)ナル符號アルハ即チ水ニ溶クルノ意ヲ附シタルモノナリ

「アリザリン」染料染色ノ工程ニ二様アリ一ツハ一浴媒染法一ツハ下漬媒染法之レナリ下漬媒染法ニモ色相ノ濃暗淡美ニ依リ從テ媒染劑ニ數種アリ凡テ濃暗色ヲ染ムル場合ニ於テハ「鹽化クローム」「醋酸クローム」又ハ「硫青化クローム」ノ如キクロミユム劑ヲ用ユルヲ適當トシ鮮明ナル淡色ヲ染ムル場合ニハ鹽基性明礬、醋酸アルミナ、硫青化アルミナ、ノ如キ礬土劑ヲ以テ適當トス

明礬アルミナ下漬ニ應用セラル可キ染料ハ左ノ數種ニシテ其他ノアリザリン染料ハ之レニ適當セズ

- 一 アリザリンレット粉狀 一 アリザリン泥狀各種赤
- 一 アリザリンマイルン 一 セルリン
- 一 ガルレイン

一 アンスラセンブリウ 一 アンスラセンブライウン
弊店試染部ノ調製ニ係ル標本ニハ左ノ五染法ニ依リ試験セシモノニ付先ヅ下漬法ヨリ順チ追フテ簡單平易ニ解説ヲナス讀者乞フ中編標本ニ就テ對照アレ

- 鹽化クローム下漬媒染法 (第十染法ノ甲)
- 醋酸アルミナ下漬媒染法 (第十染法ノ乙)
- 醋酸クローム下漬媒染法 (第十染法ノ丙)
- 鹽基性明礬下漬媒染法 (第十染法ノ丁)
- クローム明礬下漬媒染法 (第十一染法)

第十染法ノ甲

鹽化クローム(ボーマニ二十度ノモノ)ノ液中ヘ絹(縮緬)ヲ浸ス事約六時間以上ニシテ取出シ能ク清水ニテ水洗スル事

但下漬ニ使用シタル後鹽化クロームノ殘液ハ再ビ強度ノモノヲ加ヘテ二十度ニ直シ幾回モ使用スルコトヲ得

次ニ硅酸曹達(ボーマ半度ニ稀釋シタルモノ)ノ溶液中ヘ通シ十五分間繰リテ鹽化クロームヲ固着セシメ絞リ充分ニ能ク洗濯シテ後再ビ絞リ其儘乾カサズシテ染色ニ移ルナリ但固着液ニ一度使用シタル硅酸ソーダノ殘液ハ再ビ使用スルヲ得ザルモノナリ次ニ染槽ヲ造ルニハ最初染浴トスル清水ノ容量ノ五分ノ一ニ對スル程ノ石鹼練リ汁(曹

達分ノ含有シタルモノハ不可ナリ又餘リ古キモノ濃厚ナルモノモ不可ナリ)ヲ加ヘテ染浴ノ容積ヲ可染物ノ二十倍乃至三十倍程ヲ適度トシ次ニ別器ニ染料ノ溶解シタルモノヲ加ヘ次ニ醋酸少許ヲ混和シ輕キ酸性浴トシテ染メ初ムベシ

但シ染料ヲ溶解セシムルニハ其染料ノ容量約十倍位ノ冷水ヲ以テ數回徐々ニ混摩シナガラ能ク溶解セシム可シ以下倣之

右ノ如ク染浴液ノ順序終テバ直チニ前ニ下漬ノ出來タル絹布ヲ入レ初メノ内ハ十五分間計リ冷浴ノ儘繰リ漸次ニ熱ヲ與ヘ一時間許ニテ沸騰點ニ昇シ沸騰ノ儘猶一時間染續ク事而シテ之レヲ引上ケ清水ヲ以テ洗ヒ別ニ熱湯千ニ付マルセーユ石鹼二(水一升ニ石鹼一匁位ノ割)ヲ解キタル石鹼浴中ニ投シ十五分間沸騰處理ヲ行ヒ後水洗シテ最後ニ左ノ亞美法(艶付)ヲ行フ事

光澤ヲ顯ス爲水千ニ付醋酸(ボーマ六度トナシタルモノ)二十ヲ加ヘタル微温中ニテ十分間許操作シ取出シテ其儘水洗セズシテ水ヲ切り乾燥ス可シ
標本中ノ第十法ノ甲ハ凡テ前記ノ工程ニ依テ染色ヲナシタルモノナリ

第十染法ノ乙

醋酸アルミニナ(ボーマ六度ノモノ)ノ液中ヘ絹布ヲ入レ十五六分間能ク繰リテ後其儘液中ヘ十二時間計リ布片ノ浮バザル様注意シテ浸シ放置シ充分ニ下漬ヲ終ラバ直チニ取出シ水洗ヲナサズシテ其儘水ヲ切り次ノ固着法ニ移ル可シ

醋酸ソーダ(ボーマ半度ノモノ)ノ溶液中ニ於テ十五分間繰ル事前法ニ同シ又醋酸曹達液ノ代リニ重碳酸曹達ヲ水千ニ付五(一升ノ水ニ二匁五分程ノ割)ノ割合ヲ以テスルモ可ナリ此液ハ前ト等シク再ビ使用スルハ不可ナリ

右固着法ヲ終ヘテ後ハ多量ノ水ヲ以テ充分ニ水洗シ乾カサズシテ左ノ染色方法ヲ取ル
染槽ハ前法ト同様マルセーユ石鹼練リ汁ヲ加ヘ尙醋酸ヲ加ヘテ可染物ノ染得ヲル、迄ノ冷水(即チ可染布ノ容量ノ二十倍乃至三十倍)ヲ加ヘ染浴ノ準備ヲ調ヘ而シテ別器ニ染料ヲ前例ノ通ニシテ溶解シタルモノヲ加ヘ染布ヲ繰入レ同シク十五分間冷浴ノ儘繰リテ次第ニ熱ヲ與ヘ四十五分間ニシテ沸騰ニ達セシメ引續キ一時間煮染スル事

石鹼ノ後處理ハ前法ノ如ク染浴ヨリ引出シタル染布ヲ充分水洗シタル後水千ニ付二(一升ノ水ニ一匁餘ノマルセーユ石鹼)ノ石鹼沸騰浴中ニテ十五分間處理シ再ビ能ク水洗シテ例ノ醋酸ヲ以テ亞美法ヲ行フ事前法ノ如クボーマ六度ノ醋酸水千ニ二十(即チ水一升ニ對シ十匁餘ノ割合)ニ依リ微温湯中ニテ十分間浸練シ引上ケ水洗セズシテ絞リ乾燥スルモノナリ

但アシリザリンレットヲ染ムル時ニ限リ稍ヤ石灰分ノ存在スル水ヲ必要トス故ニ石灰分ナキ軟水ニハ醋酸石灰ノ少許ヲ加ヘ之レヲ硬水トシテ其染浴ニ使用ス可シ

第十染法ノ丙

此ノ染法ハ甲ノ法ト同様ニシテ唯其鹽化クローム下漬ニ代アルニ醋酸クローム(ボーマ

二十度ノモノト少許ノ稀酸トヲ使用スル迄ニシテ其工程ニ於テハ第十法ノ甲法ト少シモ變ルコトナケレバ之レヲ省略ス

第十染法ノ丁

先ヅ水千分ニ對シ明礬(鐵分ヲ含有セザル精々明礬)六十分即チ水一升トスレバ明礬三十
勿弱ト結晶曹達(洗ソーダ)六分(水一升トスレバ三勿弱)ヲ以テ下漬液ヲ造ル事左ノ如シ
最初明礬ヲ水(若クハ熱湯)ニ溶カシ之レニ結晶曹達ヲ加フレバ此ノ二物ハ反應作用ニ依
リ一種ノ沈澱物ヲ生ズ依テ之レニ熱ヲ與ヘテ其沈澱物ヲ溶解セシメ之レニ可染布ヲ投入
シテ其布ノ液面ヘ浮遊セザル様注意シテ十二時間以上放置シ後取出シ水洗セズシテ其儘
能ク水ヲ切り次ニ硫酸曹達若クハ重炭酸曹達ノ固着法ヲ行フ可シ此分量及以後ノ工程ハ
凡テ前十染法ノ乙法ト變リナキヲ以テ同法ヲ參酌セラル可シ

第十一染法

染槽ニ先ヅ可染布ノ容量ノ凡ソ二十倍乃至三十倍ノ清水ヲ盛リ之レニ石鹼練汁(凡ソ五
分ノ一)ヲ加ヘ次ニ醋酸少許ヲ點下シ更ニクローム明礬五「ペルセント」(此ペルセント
ハ可染物ニ對スル量)トホーメ六度ノ醋酸二「ペルセント」(此モ可染物ニ對スル量)ヲ溶
キ混入シテ所要ノ染料ヲ加ヘ前數法ト同様十五分間冷液ノ儘練リテ四十五分間ニシテ沸
騰點ニ達セシメ引續キ尙一時間煮染シタル後水洗シ
次ニ石鹼浴ヲ以テ十五分間沸騰處理シ最後ニ醋酸微温浴ヲ以テ十分間許亞美法ヲ行フ事

前法ニ同シ

尤モ染料ヲ溶解スルニハ冷水ヲ以テ徐々ニ混摩溶解スルコト是亦前法ノ如シ

下編之部

下編ノ全部ハ凡テ佛國染法編ニ詳記シタルハ茲ニ解説ヲ省ク何レモ標本ノ右傍ニ染法編
中ノ頁ヲ記入シアレバ就テ參看セラル可シ

尙最終二百三十一號以下二百四十號迄ノ十種ハ第五回内國勸業博覽會參考館ニ出品セラ
レタル佛國製造ニ係ル捺染器械ニ因リ二三ノ佛國染料ヲ捺染シタルモノニシテ參考ニ資
スル爲メ爰ニ之レヲ添附スル事トセリ(染法ハ捺染法別記參酌セラルベシ)

告 廣

獨佛瑞 各種染料濃淡對照標本

上中下編 洋裝舶來クローズ
仕立金文字入
標本總數千八百二十四種

上編 八百十六種

直接染料 綿布染之部
硫化染料 綿布染之部
鹽基性染料 綿布染之部
直接染料 絹布染之部

四百十二種
四百十八種
四百十六種

中編 七百六十八種

鹽基性染料 綿布染之部
酸性染料 絹布染之部
縮緬及絹布染之部

二百五十八種
四百〇六種
百〇四種

下編 二百四十種

硫化染料 綿布染之部
直接染料 綿布染之部
鹽基性染料 絹布染之部
酸性染料 絹布染之部
絹布染之部
綿布染之部

二十種
四十四種
六十八種
五十八種
四十八種

此標本ハ獨佛瑞各有名ナル染料製造會社ノ各種染料ヲ集メ單色煮染シ一種毎ニ濃淡ヲ對照シタルモノニシテ其數實ニ一千八百二十四種ノ多キニ達セリ標本ニハ悉ク染料名、商

廣

告

標、記號、濃淡ノ% (分量) 等ヲ附記シ其色相ヲ鑒識シ易カラシメ而モ之レガ染法ヲ簡單ニ說明シ附録冊子トナシタレバ染業家ノ參考資料トシテ缺クベカラザル好標本ナリ

本標本ハ元來某染色講習所ノ依頼ニヨリ弊店試染部ニ於テ染色調製ヲナシタルモノニシテ當初弊店ハ其依頼ノ分ノミヲ作製スルノ豫定ナリシガ本標本ガ如何ニ實用ニ適シ市場在來ノ標本ト大ニ其撰ヲ異ニシ染料色相撰擇ノ上ニ就テ最モ有益ナルモノナレバ普ク江湖ノ需用ニ應センカ、幾多染業家ニ貢獻スル所蓋シ鮮少ナラザレバ宜シク之レガ方法ヲ講セラル可シト斯道ノ某技師ヨリ賞讃ト勸告ヲ蒙ルノ光榮ヲ得タリ、然レドモ弊店ハ營業ノ餘暇ヲ以テ此多數千八百有餘種ノ大部標本ヲシテ悉ク其需用ニ應ズル容易ノ事ニ非ザレバ茲ニ勸告ノ好意ヲ諒トシ吾ガ愛顧諸彦ニシテ特別希望ノ方ニ限リ實費ヲ以テ貴需ニ應ズルノ方法ヲ取リ漸ク二百餘部ヲ調製スルコト、爲シ頃日漸ク其完成ヲ告ゲタレバ茲ニ愛顧各位ニ向テ至急謹告仕候

本標本ハ前記ノ如ク部數ニ限リアレバ滿限ノ後御申込相成候トモ乍遺憾謝絶可致候ニ付御希望ノ方ハ此際速ニ御申込相成度候最モ上中下編ノ中一部ニテモ貴需ニ應ジ可申候

各染料取扱商館各位迄ニ申告

此標本タル各染料製造會社各種染料ノ優劣ヲ比較スルノ趣旨ニ非ズシテ唯ダ染色家ニ於テ其色相ノ全斑ヲ識別スルノ便ニ供スル目的ヲ以テ製作シタルモノナレバ素ヨリ%ハ正確ニ用サタリト雖使用ノ水質及工程ノ差違又ハ媒染劑ノ増減ニヨリ顯色ニ於テ多少ノ不均衡アラザルナキヲ保セズ乞フ幸ニ之レヲ諒セラレシトナ

廣

告

各種染料 引染色標本 上下全二册 上 綿布ノ部 百五十餘部 下 絹布(縮緬)ノ部 二百五十餘部

此引染色本ハ最新着直接染料及普通應用セラレツ、アル染料ヲ以テ引染ヲナシタル標本四百餘種ヲ網羅シ上下二部ヲ以テ成レルモノニシテ編首之レガ染法工程ノ概略ヲ記述シタレバ以テ參考トナスベク引染ノ應用染料ヲ撰擇スルニハ至便ノ良標本タリ顧フニ引染ニ對スル染料ノ用途ハ煮染及ビ後段記載ノ糊寫捺染ニ比シ一層範圍ノ廣キモノニシテ而モ其染料ニシテ呈色相大ニ其趣ヲ異ニシ隨テ染料ノ應用モ自ラ多少ノ差違アルガ爲メ熟練ナル斯道家ニ於ルモ猶且ツ染料ヲ誤用セラル、コトヲ免ガレズ此等ハ染料ノ撰擇ニ供用スベキ適當ノ參考資料トナル一ノ標識ナキハ確ニ之ガ一原因タリ而シテ是レ迄坊間ニ行ハル、所ハ多ク煮染標本ノミニシテ未ダ此等ノ便ニ資スベキ好適ノモノアルコトヲ聞カズ此レ弊店ガ大ニ遺憾トシ今同此標本ヲ創意シ他ノ二標本ト其ニ作製シタル所以ナリ抑モ弊店ノ營業タル染色家ト近接ノ關係ヲ有スト雖染色ノ事タル素ヨリ營業ノ外ニ屬シ弊店ハ斯術ニ全ク無經驗ニシテ一ノ技能ヲ有セザレバ特ニ某斯道家ノ指教ヲ乞ヒ試染シタルモノナレバ拙劣ニシテ時ニ發色ノ上ニ充分ナラザルモノアリト雖其色相ノ全斑ヲ窺知セラル、點ニ於テ毫モ差支ナカランカ

友儼糊寫捺染標本 (縮緬地) 三百二十六種

本標本ハ近來各地方染業家ニ於テ糊寫友儼染流行ノ趨勢ヲ來シ此種ノ染料需用日ニ多キ

廣

告

チ加へ隨テ之レガ質問照會等類々ノ情況ニ至レリ而シテ從來友仙標本トシテハ單ニ染業家悉皆商ニ於テ用非ラル、所ノ配色ヲ施シタル模様裂標本ノミニシテ染料ノ何タルヲ識別スルノ便ニ資スルモノ絶テアルコトナシ弊店ハ大ニ此種ノ標本ノ必要ヲ感シ茲ニ友僊寫染ニ應用スベキ染料撰擇ノ便ヲ圖リ前項引染ニ用非タル最新着ノ直接染料及アリザリシ染料數種ト普通應用セラレツ、アル鹽基性染料酸性染料ヲ集メ此標本ヲ作製シタルモノナリ元來友僊ナルモノハ前陳ノ如ク模様ニ種々配色ナシタルモノナレドモ本標本ハ單ニ色素撰擇ノ便ニ供スルモノナレバ模様ハ簡單ナル一定ノ白抜トナシ各標本一色毎ニ單色(一色)ヲ以テ寫染シタルモノナリ

抑モ弊店ガ此標本作製之旨趣タル從來地方愛顧各位ノ此種ノ染料ヲ注文セラル、ヤ假令ハ唯單ニ納戸色或ハ牡丹或ハオリブ或ハ何々ト、然レドモ納戸色ニモ赤味ノモノアリ黃味ノモノアリテ各色トモ皆一種名稱ノ下ニ其色相多少ノ差違アルガ爲メ意思ノ疏通ヲ缺ギ送附上往々錯誤ヲ醸シ相互ニ迷惑ヲ感ズルコトアリ此レ此標本ノ必要ナル所以ナリ

前記ニ標本中引染標本ハ二百餘部ヲ作製アシタレバ前對照標本同様特別希望者ニ對シ實費ヲ以テ貴需ニ應ズ

捺染標本ノ分ハ僅々數十部ノ作製ニ過ギザレバ特別希望者ニ對シテモ尙普ク貴需ニ應ズル餘裕無之ニ就キ乍遺憾謝絶可致場合有之候間豫メ此段謹告仕候

實費其他ノ御問合ハ往復葉書ヲ以テ御照會可被下候

明治三十八年八月卅一日印刷
同 年九月四日發行

一部 金五錢

發行者 原田德太郎
京都市下京區油小路通錦小路上ル山田町十番戶

著作 服部勝太郎
京都市下京區堀川通松原下ル橋橋町十四番戶

印刷所 京都印刷株式會社
京都市上京區柳馬場通二條下ル等持寺町十番戶

京都市油小路通錦小路上ル

發行所 原田染料店

(電話一三四三番)

廣

告

チ加へ随テ之レガ質問照會等類々ノ情況ニ至レリ而シテ從來友仙標本トシテハ單ニ染業
 家悉皆商ニ於テ用非ラル、所ノ配色ヲ施シタル模様裂標本ノミニシテ染料ノ何ナルヲ識
 別スルノ便ニ資スルモノ絶テアルコトナシ弊店ハ大ニ此種ノ標本ノ必要ヲ感シ茲ニ友僊
 寫染ニ應用スベキ染料撰擇ノ便ヲ圖リ前項引染ニ用非タル最新着ノ直接染料及アリザリ
 シ染料數種ト普通應用セラレツ、アル鹽基性染料酸性染料ヲ集メ此標本ヲ作製シタルモ
 ノナリ元來友僊ナルモノハ前陳ノ如ク模様ニ種々配色ヲシタルモノナレドモ本標本ハ單
 ニ色素撰擇ノ便ニ供スルモノナレバ模様ハ簡單ナルニ定メ白拔ノナシ各標本一色毎ニ單
 色(二色)ヲ以テ寫染シタルモノナリ
 抑モ弊店ガ此標本作製之旨趣タル從來地方愛顧各位ノ此種ノ染料ヲ注文セラレ、ヤ假令
 ハ唯單ニ納戸色或ハ牡丹或ハオリア或ハ何々ト、然レドモ納戸色ニモ赤味ノモノアリ黃
 味ノモノアリテ各色トモ皆一種名稱ノ下ニ其色相多少ノ差違アルガ爲メ意思ノ疏通ヲ缺
 キ送附上往々錯誤ヲ醸シ相互ニ迷惑ヲ感ズルコトアリ此レ此標本ノ必要ナル所以ナリ
 前記ニ標本中引染標本ハ二百餘部ヲ作製シタルハ前對照標本同様特別希望者ニ對シ實
 費ヲ以テ貴需ニ應ズ
 捺染標本ノ分ハ僅々數十部ノ作製ニ過ギザレバ特別希望者ニ對シテモ尙普ク貴需ニ應ズ
 ル餘裕無之ニ就キ乍遺憾耐絶可致場合有之候間豫メ此段謹告仕候
 實費其他ノ御問合ハ往復葉書ヲ以テ御照會可被下候

明治三十八年八月卅一日印刷
 同 年九月四日發行

一部 金五錢

京都市下京區油小路通錦小路上ル山田町十番戶

發行者 原田德太郎

京都市下京區堀川通松原下ル橋橋町十四番戶

著作 服部勝太郎

京都市上京區柳馬場通二條下ル等持寺町十番戶

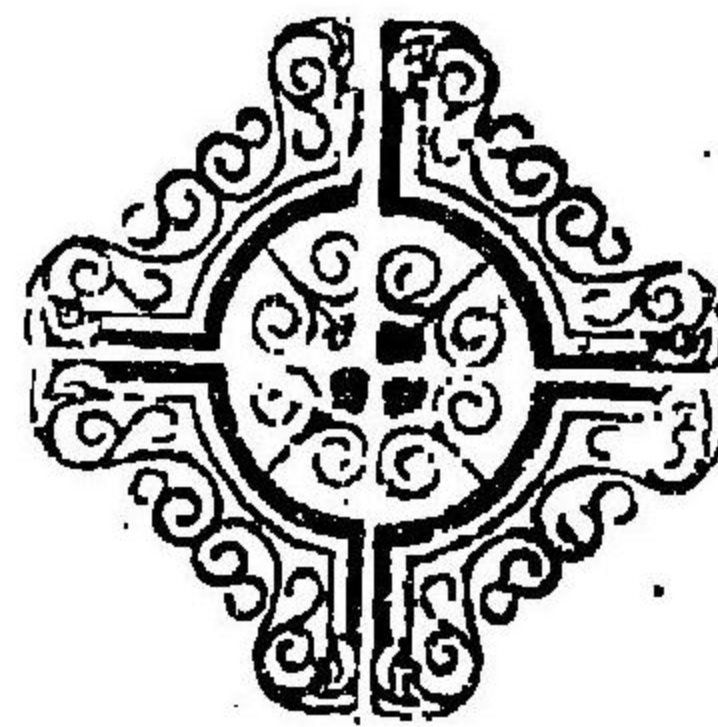
印刷所 京都印刷株式會社

京都市油小路通錦小路上ル

發行所 原田染料店

(電話二三四三番)

25-55



067489-000-9

特67-801

各種染料濃淡対照標本染法

服部 勝太郎 / 著

M38.9

CDI-0054



221
941